

平成 29 年度「子どもの学力・生活習慣改善研修会」兼 遠別町 PTA 連合会研究大会・青少年健全育成の集いについて

発行：留萌教育局 平成 29 年 10 月 28 日開催

平成 29 年 10 月 28 日（土）、遠別町立遠別小学校体育館において、管内から 70 名を超える教育関係者及び保護者、地域の方々にご参加いただき、「子どもの学力・生活習慣改善研修会」兼遠別町 PTA 連合会研究大会・青少年健全育成の集いを開催しましたので、その内容をお知らせします。

■講 演：「子どもの力を伸ばすために学校・家庭・地域でできること」

講 師：北海道教育委員会 教育委員 鶴羽 佳子 氏

講師のこれまでの経験から、子どもの力を伸ばすために、学校・家庭・地域がどのように子どもたちに関わっていくことが大切かについて講演をしていただきました。

◆子どもの頃の豊かな体験や様々な人との関わりが、社会性やコミュニケーションの基盤をつくります◆

【子どもたちの課題を感じた出来事】

- アナウンサー時代に、新入社員が多く辞めていく現状に直面し、コミュニケーションに問題を抱える若者が増加していることに危惧を覚えました。
- 仕事と育児の両立の大変さから、「子育て支援」の在り方を研究するため、大学院に行くことを決意しました。
- 学校訪問をすることで、教室環境や板書などの違いが子どもたちの理解度に影響することを知りました。



【子どもを取り巻く環境の変化】

- 近年、様々な体験や人と関わる機会が減少し、社会性を学ぶ機会が減少しており、特に「ギャングエイジ」と呼ばれる年代に、集団内の役割や自己評価、ルール等を学び、社会性を培うため、様々な体験をさせることが重要です。
- 保護者も核家族化により、子育てに対する不安から、子どもが失敗しないように先回りしてしまい、子どもの自主性を育む機会を減らしています。
- テレビ放送の変化は、情報をより受動的にとらえ、考える機会が減少させ、SNS の普及により、短文や単語で交流するため、熟考したり、考えをまとめたりの機会を激減させています。

[鶴羽委員の講演の様子]

【子どもたちの力を伸ばすために私たちにできること】

- 子どもの「～したい」を見逃さず、失敗を恐れずに様々な体験に挑戦させることが大切です。
- 保護者が「褒める、労う、共感する」ことで子どもの自己肯定感を育み、保護者が「思い」を声に出して伝え、子どもに声に出して応えてもらうことで、子どものコミュニケーション能力を育みます。
- 「整理整頓された教室」、「子どもが考えて答えを導く教師のメリハリある声や板書」など、教員の資質向上を図る学校全体の取組が、子どもの興味・関心を引き出し、学習意欲を高めます。
- 子育てを保護者だけで行うのではなく、地域の方の助けを借りることで、子どもたちに様々な刺激を与え、力を引き出すことにつながります。
- 最後に、子どもと共に、保護者も多くの挑戦と失敗する経験しながら、共に成長してほしいと思います。そして、学校、家庭、地域が共に、未来を担う子どもたちのために応援団になってください。

■演 習：「子どものために明日から私たちにできること」について

参加者同士の小グループを構成し、講演の感想交流を行いながら、教育関係者及び保護者、地域の方々がそれぞれ地域の大人として、子どもたちの成長に向けてどのようなことができるかについて意見交換を行いました。

★演習で出された意見等★

- 家族一緒にいるときには、コミュニケーションをとるなど心がけたい。
- 親も一人の人間として、肩肘をはらずに、失敗しながらでも子どもとの関わりをもって、共に成長していきたい。
- 長時間、インターネットやテレビなどのメディアに触れることが、子どもたちの生活習慣に悪影響を及ぼすこともあるので、時間やルールなどを子どもと一緒に考えていくことが大切である。
- 誰かの助けを借りることで、お互いに頼られる関係をつくるのが大切である。



[演習の様子]

【参加者の声】

- ・子どものコミュニケーション能力を育むためには、豊かな体験が重要であることを実感しました。【保護者】
- ・子どもの成長のためには、失敗やつまずきも受け止めることが大切であることを理解することができました。【保護者】
- ・講師の様々な立場に基づいた講演をいただき、大変参考になりました。これからは、コミュニケーションを大切に授業をしたいと思いました。【教職員】

【主催：留萌教育局 共催：遠別町 PTA 連合会、遠別町教育委員会】